

<認知症対応型共同生活介護用>

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>11</b>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>2</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>6</b>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>11</b>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4678800154
法人名	株式会社 地域ケアささえ愛
事業所名	グループホーム ふぬいの里
訪問調査日	平成 21 年 8 月 22 日
評価確定日	平成 21 年 10 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4678800154
法人名	株式会社 地域ケアささえ愛
事業所名	グループホーム ふぬいの里
所在地	鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木134番地1 (電話) 0997-55-4888

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島市城山1丁目16番7号
訪問調査日	平成21年8月22日
評価確定日	平成21年10月5日

## 【情報提供票より】平成21年5月1日事業所記入

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 12 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	18 人
利用定員数計	18 人
常勤	13 人
非常勤	5 人
常勤換算	14 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	階建ての 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	6,000 円 (光熱費)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	1 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名		
要介護3	8 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	むかいクリニック ・ あかおぎ歯科 ・ 水間歯科医院
---------	----------------------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アダンの茂った小道を抜けると、島特有の青い海と空が広がる風光明媚な場所に「地域ケアささえ愛 ふぬいの里」がある。親族の認知症介護を経験した開設者が、地域の認知症の方々を受け入れ、安心して生活できる場所を作りたいと奄美でも早い時期に開設している。家族と地域の繋がりの大切さを実感している管理者は、家族会支援活動、地域交流、認知症サポーター養成講座など奄美の中心的存在として活動している。`ふぬい`とは幸福という意味で、利用者の幸福な日々を支える一つとして、職員の特技を活かし三線と島唄、六調、オカリナなどの演奏を通して利用者の笑顔を引き出している。多くの看取りも行い、職員のやさしさが、自然でありのままの利用者の姿を受け入れているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価結果については職員に報告されている。外部評価での改善点はなかったが、自己評価の中でお金を使う事の支援について、利用者自身に選んでもらいお金も払えるように支援するなど、改善に上がった項目を話し合い改善に向けて取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>各ユニットごと、主任を中心にミーティングなどで話し合い記録したものをもとに管理者がまとめている。職員は、ケアについて気づかされることもあり振り返りの機会となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は、利用者の状況報告や事業計画、行事報告などをした後に、さまざまな立場からの意見交換を行なっている。参加している区長や民生委員から、地域で困っている方、支援が必要な方の情報を得ると共に、包括支援の職員から入居される方の優先順位のアドバイスを受けるなど、地域の中のホームとして、参加している代表の方々の意見が運営に反映されている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会は年2回あり、家族会として出来る事はないかと話し合い、ホーム周辺の掃除をされるなど感謝している方が多い。家族の意見を聞く機会は、運営推進会議や面会時などで、個別に対応し出された意見や要望は、話し合い共有している。苦情受付の第三者相談委員も立てている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近隣の方々とは散歩などで会うと気軽に声を掛け合い、お花や野菜などを頂くこともある。利用者と一緒に六月灯や八月踊りに参加したり、ホーム内コンサートに地域の方を招いて、舞踊、民謡、島唄、六調、ウクレレ、オカリナ、三線などの演奏や踊りを一緒に楽しんでいる。</p>

## 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域の中で、人間関係を豊かに保ちながら、社会参加を目指していきましょう」という地域密着型サービスとしての理念に、職員と話し合い作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例会で理念の唱和を行い、職員が共有できるように心がけている。包括支援センター職員の協力を得て、月に1回、高齢者予防体操を地域の高齢者と利用者が一緒に集まって行なうなど、理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	六月灯や八月踊りに利用者と一緒に出かけたり、地域の方を招待してホームコンサート(舞踊、島唄、三線、民謡、オカリナ、ウクレレ、六調など)を毎月行なうなど地域との交流に努めている。また、地域の独居高齢者の見守りや相談にも対応している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果については報告している。自己評価の改善点についても話し合い改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価については、各ユニットごと、主任を中心に話し合い、管理者がまとめている。	○	自己評価を行なう意義について職員は理解しており、全員が参加してケアの振り返りとなれるように取り組みの工夫をされ、自己評価、外部評価後の取り組みを記録に残されることを希望します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、利用者の状況報告や事業計画、行事報告などの後に、さまざまな立場からの意見交換を行なっている。地域代表から、地域で困っている方、支援の必要な方の情報を得ると共に、包括支援センターの職員から入居される優先順位のアドバイスを受けるなど、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、市町村のケア会議委員や社会福祉協議会の評議員を務めると共に、包括支援センターと協力し認知症サポーター養成講座を進め、奄美の認知症ネットワークを作りたいと活動している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月次報告書には、身体状況(血圧・体温・体重)介護状況(食事・入浴・排泄・睡眠)日常生活の様子などを担当職員が記載し家族に送付している。家族からは喜ばれている。職員の異動や行事案内などは、「ふぬい便り」で定期的に報告している。金銭の預かりはせず、買い物の確認を家族にしてから請求している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は年2回、行事に合わせて開催している。特に苦情や不満は上がり、家族会で出来る事はないかと話し合いホーム周辺の掃除をされるなど感謝している家族が多い。面会も多く、個別に対応し意見や要望が出された場合には、職員で話し合い共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員を固定化しているが、ホーム全体の交流もあり、馴染みの関係ができています。離職を最小限に抑えるため、看取り介護時や受診介助には職員の人数を増やしたり、有給を取りやすいように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットごとに、認知症の基礎知識についてや必要なテーマを決めて勉強会を行なっている。外部研修については、希望を優先している。奄美地区の研修に参加した場合には、職員会議で伝達講習をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、大島地区グループホーム連絡協議会の発起人として、自分のグループホームの良さを再発見するため、他の事業所見学や職員同志の情報交換を行なうなど、奄美全体のサービスの質の向上を図るための体制を整えてきている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	通所から入居される方もいるが、施設や自宅からの場合には、本人と家族に見学に来てもらい雰囲気を感ずてもらっている他、馴染めるように職員が数回本人と会う機会を作っている。入居後も馴染めるまでは、家族に協力をお願いしたりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に対し尊敬と親しみを込めて「おばあ」と呼びかける。利用者から、郷土料理や方言、島の歴史などを教えてもらった時には感謝の言葉を伝え、三線の音に島唄を聞く笑顔の姿に、共に支えあっている喜びを感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は自宅を訪問、本人、家族から話を聞き、入居後は面会に来られた知人友人から情報を得るなどの把握に努めている。職員には、介護記録に利用者の言葉を残すように指導し、地域の協力や職員の見守りなどで、一時帰宅ができるように支援するなど、一人ひとりの思いの実現に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティングで利用者の状況、思い、職員の思いを表にまとめ職員の気づきを引き出している。サービス担当者会議に参加できない家族には、面会時や電話等で意見や要望を確認している。職員の気づきと家族の意見を盛り込み、家族の協力が必要な場合には計画に組み入れるなどしながら、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員会議の後に、毎月モニタリングを行い評価を行っている。見直しは6ヶ月に1度行っているが、変更が必要な場合には、家族と話し合い新しい介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携により、訪問診療、訪問看護、協力病院による24時間体制が整っている。家族からの要望があれば、職員が病院受診に付き添ったり、外泊や墓参りなどの支援も行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。3ヶ月に1度の定期受診には、できるだけ担当職員が介助し適切な医療が受けられるように情報を提供している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今までに何件かの看取りも行っており、家族、医療関係者、職員との連携をしっかりと、話し合いながら方針を共有してきている。	○	今後、契約時に重度化した場合の事業所としての対応について明文化し、「意思確認書」として家族から同意を得られることを希望すると共に、終末期を介護する職員の不安感を少なくするための工夫をされることを期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域性が強いので、職員の守秘義務については徹底を図っている。羞恥心の問題についても、認知症ケアの勉強会に組み入れ、一人ひとりの声かけや対応について配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間を決めず体調に合わせてゆっくり起きられたり、好きなテレビを楽しんだり、晩酌をしたり、夜シャワーを浴びて休まれる方など、それぞれの希望に沿って支援している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る、たらの芽、ハマゴボウ、つわなどの下ごしらえや片付けなどを手伝っている。島の食文化を大切にし行事や誕生会の時などに郷土料理を提供している。職員も共に食卓を囲みながら、食材の話題から昔の話や歌になるなど楽しく食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホームの裏手に海があるので、夏は海水浴でいせも予防をしている。いつでも入浴できるようになっており、夏はシャワー、冬は湯舟と季節に合わせている。拒否される方には、アプローチの職員を替えたり、声かけのタイミングを工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の出来る事、洗濯物たたみ、ゴミ捨て、配膳、利用者の見守りなどをお願いして、終わった時に職員は感謝の言葉を伝えている。楽しみごとは、職員の三線や島唄を聞いたり、ホームコンサートなどで、ドライブや花見、墓参りなどで気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近所の店におやつを買いにいたり、中庭は芝生になっていてベンチがあるので、季節によっては日光浴をしたり、お茶や食事をするなど、いつでも戸外に出られるように支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに自由に入出りできる環境にしている。職員が手薄になり危険性がある時には、鍵をする想定もしているが、今の所はほとんどない。出て行かれた時には、近隣の協力も得られるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いの下に年1回の消防訓練を行っている他、月に1回の自主訓練を行っている。自動通報・警報装置も設置している。地域の方々には協力をお願いをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量について、職員は把握している。様々な食材を使い、バランスよく食べてもらえるようにしているが、時々栄養士からアドバイスを受けている。食事形態もそれぞれ食べやすい大きさにするなど工夫している。	○	水分摂取は、病気の早期発見や認知症進行予防にもつながることから、全職員が意識して関わるためにもチェック表を作られることを希望します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット、違う造りとなっている。家庭に居ると変わらないように、段差がある玄関、対面式のキッチンからはご飯の炊ける臭いがしている。もう一方はバリアフリーで、廊下も広くゆったりとしている。共通の中庭は、芝生が張られブーゲンビリアの棚が、鮮やかな赤紫が印象的である。もうすぐ旧暦の七夕で、それぞれ利用者で作った七夕飾りが飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の使い慣れたタンスや時計、テレビ、位牌、衣装ケース、パイプハンガーなどが持ち込まれ、家族の写真などが飾られ、その人らしい部屋になっている。居室を家ととらえているため、掃除は基本的に家族と本人でしてもらっている。		